

| | | |
|-------|---------|-----------------------|
| お客様各位 | 製品不具合情報 | 発行日 2014年09月02日 |
| | | 発行No. DB70207-0 |
| | | 日本パルスモーター株式会社 開発本部 |

1. 不具合対象品

ステッピングモータ駆動用シーケンス機能付きパルスコントロール L S I
PCD4600シリーズ (PCD4611, PCD4621, PCD4641)

(PCD45x1 シリーズなどの他機種では本不具合は発生しません。)

2. 不具合内容

即停止コマンド(08H)または減速停止コマンド(1DH)が書き込まれた後で、スタートコマンドを書き込むと無視されてスタートしない場合があります。

3. 不具合発生タイミング

スタートモードコマンドバッファは最後に書き込まれたコマンドを記憶しています。

例えば、停止コマンド(08H)を書き込み後にスタートコマンド(15H)を書き込むと、記憶内容が08Hから15Hに変化します。

ところが、スタートコマンド書き込み時の \overline{WR} 入力信号の立ち上がりエッジが、CLK入力信号の立ち上がりエッジと同一タイミングになった場合には、記憶内容の更新ミスが発生し、前回の記憶値のままのビットと今回の書き込み値に変化したビットとが混在してしまい、誤ったコマンドとして認識してしまう事が判明しました。

たとえば、停止コマンド(00001000)の後にFH高速スタートコマンド(00010101)を書き込むと、ビット3だけ前回の値となり、“00011101”がコマンドバッファに書き込まれる場合があります。

“00011101”は減速停止コマンドと認識され、スタートしません。

不具合発生タイミング



4. 不具合回避方法

スタートコマンド書き込み時に、下記の手順に変更していただく事により不具合現象を回避できます。

- ①スタートコマンドのビット4だけを0に変更したコマンドを書き込む。(ダミーコマンド)
- ②CLKの1周期以上の時間を待つ。
- ③本来のスタートコマンドを書き込む。

例. FH高速スタートコマンド(15H)の時

- ①ダミーコマンドとして05Hを書き込む。
- ②CLKの1周期以上の時間を待つ。
- ③本来のコマンド(15H)を書き込む。

以上、ご査収のほど、宜しくお願いいたします。